



こ  
ど  
も

よ  
し  
こ

信子さんは歸ろうとしていらつしやるお母様に  
だきついてワアワア泣き出しました。お母様は一  
生懸命に

「ねエ先生、信子はえらいんですよ、このお正月  
で六つになりましたからババだのママだのつて  
いふとおかしいからお父様お母様といひませう  
ねつて自分から云ひ出しましたの、ねエ、そんな  
にえらくなつたのにどうして泣くの、ええ」信  
子さんはこんなほめられてもまだまだ泣いてゐ

ました。ほんとうにどうしたんでせうねかう云つ  
て困つていらつしやるお母さんに、泣きじやつく  
りしながらもせいびして、缺と信子さんが云  
つたので

「あ、ごめんなさいね、先生かうなんでござ  
いますよ、信子のはざまのふだがとれたので私  
が家に持つて歸つてつけてあげませうつて持つ  
て歸つたまんま忘れてしまひましたの、それで  
お母さんが先生にあやまつてあげるお約束だつ  
たのにこれもすつかり忘れてしまひましたんで  
すよ、さあ行きませう」

お母様は、わざ／＼コートをぬいで信子さんをつれて大野先生にあやまりにいらつしやいました。信子さんはもう泣いて居ませんでした。

## 二

晴子さんはお友達がみんな歸つてしまつてから先生のお室にはいつて一生懸命に繪をかいてみました。

「これね、西洋人なの」

出来上つたお嬢さんの繪を丁度來ていらつしやつた倉橋先生にお見せしましたら

「なるほど、たしかに日本人ぢやないなあ」

先生はかう云つて晴子さんの顔をヂツと見つめていらつしやいます。

晴子さんのかいたお嬢さんの眼は青うございしました。

「晴子がね、この間からどうして西洋人の眼は青

いんだらうつてそればかり云つて居ましたの青いものでも食べたからかしらなんて云つて居ましたつけ」

晴子さんのお母さまがかう云つていらつしやる時に、

「海ばかり見て居るからでせうね」

晴子さんは無造作にかう云ひながら片足でピョン／＼はねて行つてしまひました。

そこに居合せた皆は思はず顔を見あはせてしまひました。

## 三

及川先生の室に用があつて行きました。

陽ちやんがぢやまだ／＼といふので氣がついて見るとあや子さんがに寫眞をとつてもらふところなのです。床上積木をいゝ具合に幾つか重ねて出来た寫眞機をのぞきながら陽ちやんはすまして立つ

て居るあや子さんをうつしました。

寫真がすぐ出来上りました。大きい細長い方の積木に、白い白ぼくで、人の形がかいてありました。

#### 四

みんなの家から郵便はがきを一枚づつ持つて來てもらひました。それをあつめて幼稚園の郵便局の窓から顯子さんと、和惠さんとが賣りました。そのはがきに皆で繪をかいたのでお友達のところに出しませうねつて云ひましたら

「私泰子さんに出すの」

「僕壯一郎さんのところにかいて」

皆の手が一時に私の前に出ましたので順々に待つて居てもらつてそれぞれ住所と宛名をかいて居りました。

「私ね堀先生のところにかいて頂だいよ」

晴子さんが云ひましたので上戸塚五七五とかいてみましたら宮城あい子さんが

「それちやわたし倉橋先生に出すわ」

さうさう倉橋先生が幼稚園にいらつしやる時に入園した組だつたけ、などと思ひながら中野千光前とかきました。

お天氣のいゝ日だつたので皆自分のかいたはがきを持つてゾロ／＼と門の前のポストに入れに行きました。せいびしてポストにつかまりながら一ときにはがきを入れて居る様子を通りがりの小父さんがニコ／＼して立どまつて見て居りました。

#### 五

大野先生の机の上に見なれない一寸四方位の紙に、「この札をもつて三十日以内に右の所に出頭すれば代金を拂ふ」といふ意味の書付がありました。

これ何つて聞きましたら大野先生は、笑つてく  
なかく云つて下さいませんでした。

小使の小母さんの室のわきに鼠の死んだのが居  
たと見えてその日は朝から小さい人達の間で鼠々  
といふことを方々で云つて居ました。

その中巖<sup>イワ</sup>さんが

「交番に持つて行くとお金をくれる」

と云つたのをきいた土方敬太さんが、その死んだ  
鼠をまあどうしてさげて行つたことせう一人で  
さつさと裏門から本郷座のそばの交番に持つて行  
きました。

おまはりさんはどんな顔してこの可愛いらしい  
お使にお話をしたことせう。忠實なおまはりさ  
んは鼠をうけとつてさつきの書付を、敬太さんに  
渡したのでさつさと幼稚園に歸つて來たのだそ  
うでございます。

## お雛祭り

大阪市露天幼稚園

松川ヨネ

花子さんと千代子さんと敏子さんとは大の仲よ  
しでありまして、毎日幼稚園から歸つて参ります  
と、いつでも一緒になつて楽しく色々のお遊びを  
してゐます。

今日も二人が幼稚園から歸つてから花子さんの  
おうちの門口で、ゴム毬をついて遊んでゐますと  
急に空の方でブーンといふ大きな音が聞え出して  
來ましたので、皆は言ひ合せたやうに毬つく手を  
やめて、ちよいと上の方を見ますと、これはどう  
した事せう？ それはく美しい蝶型の飛行機  
が、二三人のかわゆらしい女の子達を乗せて、  
すんぐ下へ下りて來るのです。